

めい あい へるぶ ゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願い続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めい あい へるぶ ゆう？（何かお手伝いすることはありますか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、障害者のニーズを理解し、ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。

私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

2024年度(第44期) 事業報告書



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>



人と人、人と社会、人と明日をつなぐ 「めい あい へるぷ ゆう」

国連で国際障害者年が定められた1981年、ダスキン創業者・鈴木清一が提唱した「めい あい へるぷ ゆう」(何かお手伝いできることはありませんか)の想いで誕生しましたダスキン愛の輪基金。障がい者の自立と社会との共生の実現を願って活動を続け、今年で45年目を迎えます。

当財団では現在、主に二つの事業に取り組んでいます。

一つは、財団設立時から実施している「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」。

地域社会のリーダーとして貢献を目指す障がいのある方を日本から海外へ研修派遣しています。帰国後、研修生はその経験を活かし障がい者支援事業の運営、大学教授や弁護士、パラリンピック選手等さまざまな分野で活躍されています。

もう一つは、1999年より実施している「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」。アジア太平洋地域の障がいのある方を招き、障がい者団体や施設で日本の障がい者福祉を学んでいただいています。そして帰国後は、母国で障がい者福祉のリーダーとして活躍されています。

これらの事業活動は、ご賛同いただいている会員の皆さまからの会費、多くの方々からの募金や献金、そして研修生を受け入れていただく研修機関など、皆さまの温かいご支援によって支えていただいておりますことを、心より感謝申し上げます。

ダスキン愛の輪基金は会員憲章に「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。」と記しています。

事業を通して、一人でも多くの方々とこの想いをつなぎ、活動を通じて人と人、人と社会、人と明日をつなぐ「愛の輪」が広がることを願っております。

今後ともお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金
理事長 大久保裕行

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業



事業発足後、44年間で 542名の研修生を海外17カ国に派遣

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

研修派遣生の構成 (542名)

地域別(応募時)

北海道	9名	北陸	13名
東北	28名	近畿	106名
北関東	65名	中国	21名
南関東	59名	四国	15名
東京	132名	九州	44名
東海	50名		

障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	121名
聴覚障がい	105名
盲ろう	2名
肢体不自由	213名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	5名
発達障がい	1名

海外派遣先別

アメリカ	411名
イギリス	32名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	14名
ドイツ	11名
カナダ	10名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	8名
ノルウェー	3名
デンマーク	7名
フランス	2名
フィリピン	1名
ロシア	1名
大韓民国	1名
コスタリカ	1名

第45期 研修派遣生のご紹介 <自分で設定したテーマで学ぶ個人研修生>

藤井 壮大さん (発達障がい)



研修国
フィンランド

研修テーマ
成人期発達障害支援制度と実態に着目したフィンランドの福祉制度とデジタル活用

福祉国家フィンランドに学ぶ
支援が十分でない日本の成人期発達障がいの理解と、当事者の社会参加に貢献したい。

イスラムエムディ シャリフルさん (肢体不自由)



研修国
アメリカ

研修テーマ
障がい者支援の先進的な方法とリーダーシップ

夢を実現するための力を手に
最新のビジネスやサプライチェーンなどの多様な分野を学び、知識と技術を身につけ世界中の障がいのある人々をエンパワーメントしたい。

小宮山 絢子さん (聴覚障がい)



研修国
アメリカ

研修テーマ
自分の障がいを理解し、職場も含めて聴者と関わる場で周りを巻き込むことの重要性

聞こえないことを受け止める社会へ
聞こえない人を支えるスキルを海外に学び、まずは自分の周囲環境を整え、事例を広げていきたい。

伏木 和香さん (聴覚障がい)



研修国
アメリカ

研修テーマ
XR表現でひらくメタバース時代のユニバーサルなエンタメ

アクセシビリティの可能性を学ぶ
仮想空間を活かしたインクルーシブな表現や、企業がアクセシビリティに取り組むことの投資効果について学びたいです。



第44期 個人研修生

八木 郷太さん
(肢体不自由)

研修先 アメリカ

研修期間 2025年2月～2025年12月

研修テーマ 障がい者運動における権利の理解と主張
～権利意識の必要性を伝えるための具体的な手法を学ぶ～

揺れる政権と障がい者権利を肌で感じて

障がい者支援を行う4団体の代表が協議するイベントに参加しました。トランプ政権による障がい者の権利や生活を脅かす多くの政策、さらに教育省の解体が障がい学生に与える影響などについて、どう取り組むべきかといった話を聞くことができました。今後はさらに関連制度と政権の施策を学ぶ一方で、できるだけ多くの当事者にも話を聞きたいと思えます。また、ワシントンでのカンファレンスでは、自分もワークショップを担当することになり、重度訪問介護の海外長期利用の事例について話すことができました。



第44期 個人研修生

宮本 悠衣さん
(視覚障がい)

研修先 デンマーク

研修期間 2025年1月～2025年12月

研修テーマ 視覚障がい者の社会参加に必要な支援体制のあり方を学ぶ

ここでしか学べないことを積み重ねて

研修の中で、自分の見え方や必要なヘルプについて、言葉で相手にわかるように伝えることの大切さを学びました。伝えることで人との関わり方が変わります。研修先の学校では、常に皆が楽しみながら、それぞれのできる参加の仕方、互いに助け合いながら1つのことをつくり上げたり、時間を共にしたりすることを大切にされていると感じています。一瞬一瞬を大切に、ここでしか体験できないことを積み重ねることができました。この研修を振り返るたび、出会った仲間への感謝の気持ちが溢れてきます。素晴らしい時間を過ごさせていただけたことに、改めて感謝したいです。



第44期 個人研修生

齊藤 美羽さん
(肢体不自由)

研修先 デンマーク

研修期間 2024年8月～2025年6月

研修テーマ 福祉先進国における障がい者に対する制度や捉え方を学ぶ

遠慮せず思いを伝えることの手応え

障がいを理由にあきらめない。遠慮せずやりたいことはやりたいと言って助けを求め、そして一緒に楽しむ。そんな貴重な経験を重ねることができました。研修先の学校では、共に助け合うのが当たり前。困難なことが起きたら正直に自分の思いを伝えました。それを相手も素直に受け止める。話し合いを重ねることで新しい気づきがあるし、仲間の絆も深まっていく。最後まで手を取り合うことができたのは、お互いの気持ちを理解し合おうという思いがそれぞれにあったからだと思う。そんな手応えを何度も感じました。



第44期 ミドルグループ研修生(精神障がい) 精神障害当事者会 ポルケ



山田 悠平さん
(リーダー)

研修先 イタリア

研修期間 2024年6月30日～2024年7月10日

研修テーマ 障害者権利条約の実施についての取り組みを学ぶ

愛の輪基金の研修での学びを 地域社会や障害コミュニティに お届けしていきたい

イタリアでの研修を通じて、障害者権利条約の実施の大きなテーマである脱施設化とインクルーシブ社会づくりに求められる考え方や実践を深く学ぶ機会となりました。特に学びを通じて、障害コミュニティ以外の人たちとの地域づくりを深めていくことや都市化によって失われている地域のつながりを、新たなスタイルで創ることで社会貢献できればという想いを新たにしました。今後の活動において、今回の学びを地域社会や障害コミュニティにお届けしていきたいと思えます。障害者権利条約が示す理想とする社会に向けて、道をどのように創っていくかと自問して帰国の途につきました。

※「障がい」の「がい」を漢字にしています。これは私たちが「障害」は社会の側にあると考え、そのことを伝えるため、敢えてひらがなではなく漢字で表記しています。



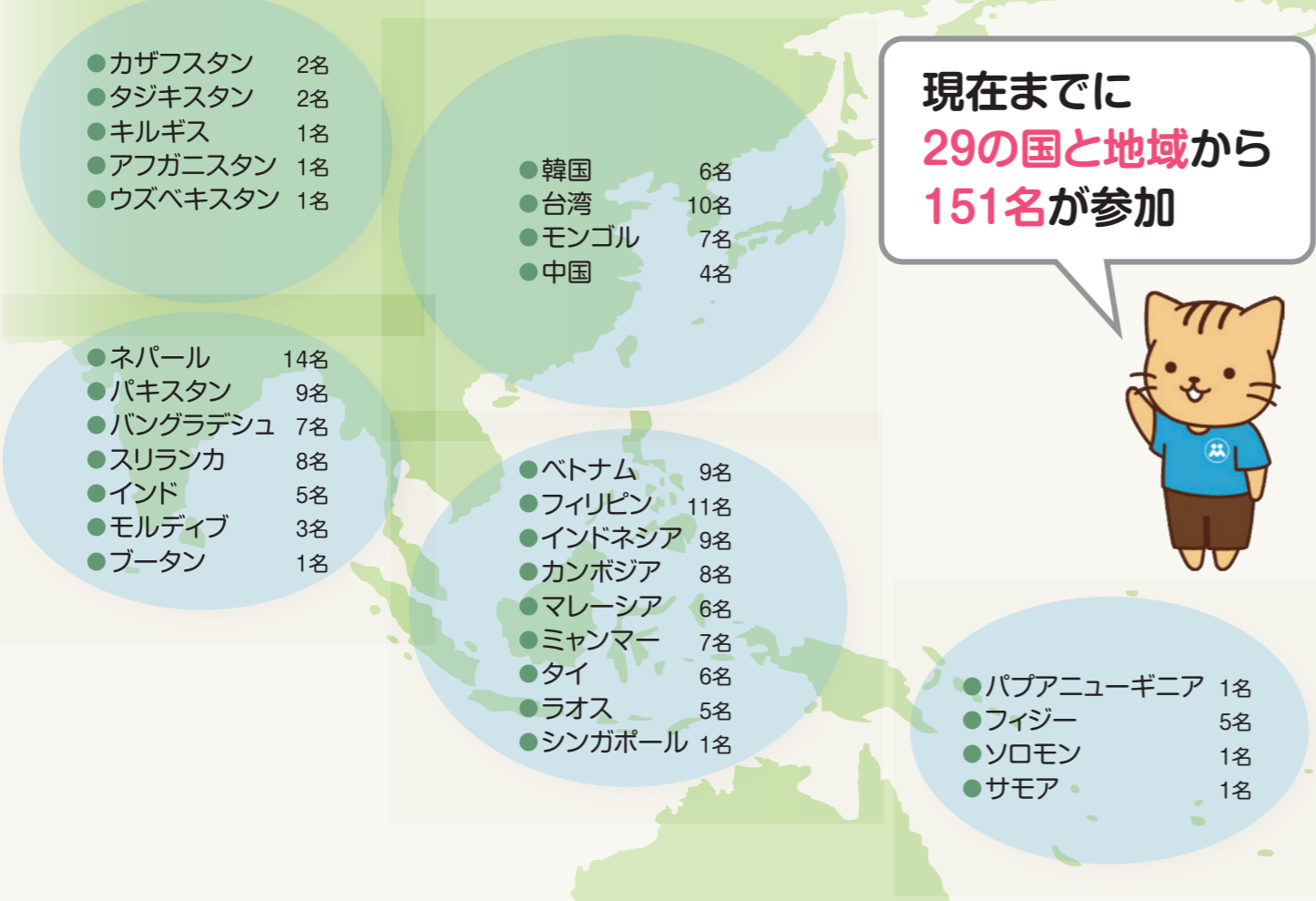
相良 真央さん

イタリアの風に当たりながら 現地の方々と話ができる愛の輪の 研修の意義を感じました

イタリアでは、人々の暮らしがどのように形成されてきたのか、どのようなことを大事にしながら生活しているのかなどを知ったうえで話を聞くので、その背景を理解する必要性を常に感じました。ある程度は自分で調べられても、感覚としての文化はやはり現地でないとわかりません。イタリアの風に当たりながら現地の方々とお話しする研修の意義を感じました。また、精神医療保健について参考としたい取り組みや考え方に多く触れることもできました。日本では研修での学びをどのように伝えて何をすべきか、仲間とともに実践の中から考え、行動し続けたいと思えます。



1999年の発足より26年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業



国連アジア太平洋経済社会委員会が決議した「アジア太平洋障害者の10年」の中間点にあたる1999年、愛の輪基金ではその要請に応じてアジア太平洋地域の障がい者福祉を向上させるために、「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」を開始しました。

この事業は、アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で日本の障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。

300名を超える応募者の中から選ばれた第24期の4名の研修生は、それぞれが約9カ月に及ぶ日本での研修に臨みました。

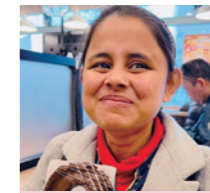


ビャンバスレン・ブンチンさん
(聴覚障がい)

- 年齢: 37歳
- 出身地: モンゴル(ウランバートル)
- 愛称: ビャンバ

Byambasuren Bumchin

母国では、モンゴル手話の研究や啓発などを行うNGO団体に所属しているビャンバさん。日本では全国の研修先で、障がい者団体の活動内容や日本の手話通訳、ろう教育などについて学習。帰国後は、日本で学んだことを自国のろう者コミュニティで共有するとともに、手話通訳者養成、ろう児教育などにも携わることを希望されています。



タスリマ・スルタナ・ミトゥさん
(視覚障がい)

- 年齢: 30歳
- 出身地: バングラデシュ(タンガイル)
- 愛称: ミトゥ

Taslima Sultana Mitu

ミトゥさんは、バングラデシュにある身体障害者育成財団に所属しており、視覚障がいのあらゆる面での自立、機会均等と完全参加の促進のための活動を行っています。今回の研修では、障がい者のための支援機器、障がい者の自立生活を学び、日本文化を体験。帰国後は、音楽やスポーツ施設を兼ね備えた障がい者のための情報センターの設立を目指しています。



カー・ウェイ・トゥワンさん
(肢体不自由)

- 年齢: 28歳
- 出身地: 台湾(台北)
- 愛称: ココ

Ke Wei Duan

台湾初の自立生活センターである台北市新活力自立生活協会で、ソーシャルワーカーとして勤務するココさん。研修では、非営利組織の運営、地域での障がい者の自立生活や啓発活動、地域デザイン、社会福祉制度などを学習。帰国後は、誰もが参加できるバリアフリーでインクルーシブな社会を目指し、自立生活センターでの活動を続けていくそうです。



ラクシミ・クンワルさん
(肢体不自由)

- 年齢: 36歳
- 出身地: ネパール(ラリトプル)
- 愛称: ラクシミ

Laxmi Kunwar

ラクシミさんは、母国では自立生活センターに所属しており、ピアカウンセラーとして勤務しています。日本では各地の研修先で障がいに関する制度設計をはじめ、自立生活、啓発活動や交渉方法、人材育成、レポートや企画書の書き方を学びました。帰国後も引き続き、自立生活センターでアドボカシー活動などの運動を続ける予定です。



第24期アジア研修生、約9カ月の研修に奮闘!



開講式(2024年9月25日)

日本で学びたい!という熱い思いを胸に来日した4名の研修生。ご来賓の方々からの温かいお言葉と大きな拍手に迎えられ、研修生の表情には自分の夢に向かってスタートする喜びがあふれました。



成果発表会・修了式(2025年6月24日)

約9カ月の研修で成長した研修生の姿に、お世話になった研修先やホストファミリーの方、ダスキン加盟店の皆様など90名の参加者から惜しみない拍手が送られ、理事長より修了証が授与されました。

第24期生 主な スケジュール

2024年 9月 来日・開講式
9月~10月 オリエンテーション
9月~2025年1月 語学研修(日本語・日本手話)
12月~2025年1月 ホームステイ

2025年 1月 集団研修①
2月~5月 個別研修
5月~6月 集団研修②
6月 成果発表会・修了式 / 帰国

全国各地で愛の輪啓発活動が行われ、 ご理解とご支援の輪が広がりました

ミスタードーナツ

フレンドシップフェスティバル2024 研修修了生が全国各地で講演

映画&エンターテイメント
全体のバリアフリー化を
進めたい

取り組んでいるNPO法人の
ファンドレイジング
(資金調達)とは

障がい当事者が見たイタリアの教育と社会、
日本の課題について



鈴木 海人さん(右)
(第42期研修派遣生)
7月24日:東北地域大会



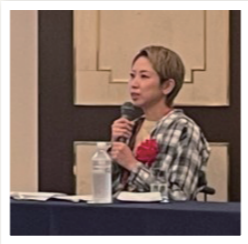
笠柳 大輔さん
(第40期研修派遣生)
8月5日:東京地域大会
8月26日:神奈川地域大会



鍛冶 克哉さん(右)
(第40期研修派遣生)
8月6日:中国・四国地域大会
8月20日:北関東地域大会
8月21日:九州地域大会



鍛冶 克哉さん(左)
数矢 雄さん(右)
(第40期研修派遣生)
8月5日:近畿地域大会



真名野 枝里子さん
(第40期研修派遣生)
8月5日:北海道地域大会

研修修了生が催事でメッセージを発信

♪ダスキンファミリー新春の集いで研修修了生が講演&演奏♪

視覚障がいのある
子どもたちに
フットサルの楽しさを

手話教室を開催し
「ありがとう」などの
言葉をレクチャー

自信と夢を取り戻し
伴侶を得たことなど
愛の輪への感謝を明言

イタリアで学んだ
インクルーシブ教育に
ついて紹介

研修で得た学びと
ご縁を感謝とともに
お伝え



大平 英一郎さん
(第38期研修派遣生)
1月8日:北陸地域



山本 真記子さん
(第33期研修派遣生)
1月10日:北海道地域



山内 なるみさん
(旧姓:藤原)
(第34期研修派遣生)
1月10日:中国・四国地域



数矢 雄さん
(第40期研修派遣生)
1月15日:近畿地域



宮城 千恵子さん
(第37期研修派遣生)
1月15日:九州地域

※上記のほか、1月14日:東北地域・東海地域でも開催されました。

「愛の輪」の活動は会員の皆さまの会費やご寄付によって支えられています

ソフトバンク
「つながる募金」が
ご利用いただけます。

クレジットカード、またはソフトバンク
ご利用者なら、携帯電話料金と一緒に
ご寄付いただけます。

本年度実績 **52,501円**



つながる募金

ソフトバンク
「つながる募金」を通じて
愛の輪運動へ寄付されます。

詳しくはこちらへ



ダスキンWeb会員サイト
DDuetコイン募金ページの開設。

本年度実績 **1,310,069円**



ダスキンの商品購入等で付与される
DDuetコインを愛の輪基金に
寄付できるようになりました。

詳しくはこちらへ



●正味財産増減計算書 ●財産目録 ●貸借対照表 ●収入・支出 ●会員数の推移



科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益計	20,220,999
受取会費・賛助金計	146,389,850
受取寄付金計	18,113,216
雑収益計	1,844,244
経常収益計	186,568,309
経常費用計	167,675,515
当期経常増減額	18,892,794
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	18,892,794
一般正味財産期首残高	303,207,476
一般正味財産期末残高	322,100,270
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	34,421,043
指定正味財産期首残高	1,904,034,200
指定正味財産期末残高	1,938,455,243
III 正味財産期末残高	2,260,555,513

資産の部	金額
【流動資産】	
現金預金	72,491,655
未収金	11,023
貯蔵品	769,490
前払金	0
仮払金	266,399
流動資産合計	73,538,567
【固定資産】	
基本財産	2,179,455,243
その他の固定資産	8,630,777
固定資産合計	2,188,086,020
資産合計	2,261,624,587
負債の部	
【流動負債】	
未払金	957,126
預り金	110,948
前受金	1,000
流動負債合計	1,069,074
【固定負債】	
退職給付引当金	0
固定負債合計	0
負債合計	1,069,074
正味財産	2,260,555,513

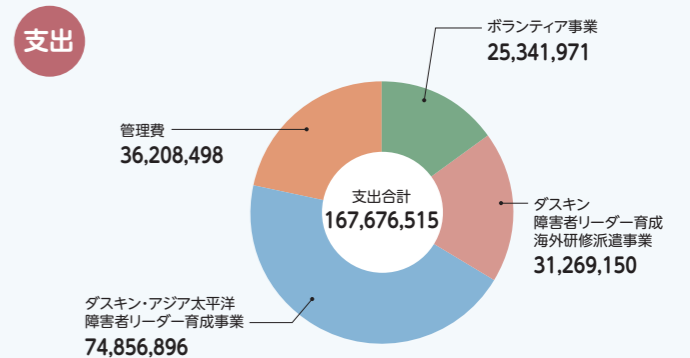
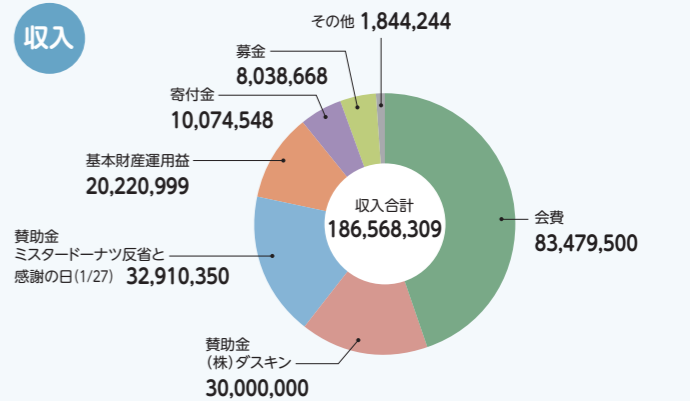
	第42期 2023.3.31	第43期 2024.3.31	第44期 2025.3.31
資産の部			
流動資産	229,422	54,482	73,538
固定資産	1,930,812	2,159,962	2,188,086
資産合計	2,160,234	2,214,444	2,261,624
負債の部			
流動負債	4,288	1,516	1,069
固定負債	8,808	5,687	0
負債合計	13,097	7,203	1,069
正味財産の部			
指定正味財産	1,892,502	1,904,034	1,938,455
一般正味財産	254,635	303,207	322,100
正味財産合計	2,147,137	2,207,241	2,260,555
負債及び正味財産合計	2,160,234	2,214,444	2,261,624

※記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

会員数の推移 2025年3月31日現在 単位:人(件)

	第42期 2023.3.31	第43期 2024.3.31	第44期 2025.3.31
法人会員	219	219	223
特定法人会員	431	424	419
エルダー会員	447	416	401
動きさん会員	1,535	1,488	1,417
個人会員A	1,340	1,395	1,370
個人会員B	2,717	2,606	2,501
個人会員C	5,794	5,300	5,340
小計	12,483	11,848	11,671
メイト会員	2	13	2
(累計)	174,230	174,243	174,245
合計会員数	12,485	11,861	11,673
(累計)	186,713	186,091	185,916

収入・支出 単位:円



財団の歩み

第1期 1981年

- 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
- 4月1日:ミスタードーナツ障がい者リーダー米国留学基金設立。
- 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

第2期 1982年

- 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
- 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。

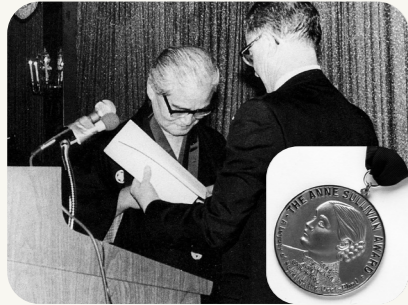


- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。

第3期 1983年 ●留学生9名を派遣。

第4期 1984年 ●留学生9名を派遣。

- 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



第5期 1985年 ●留学生9名を派遣。

第6期 1986年 ●留学生8名を派遣。

- 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。

第7期 1987年 ●留学生8名を派遣。

第8期 1988年 ●留学生7名を派遣。

第9期 1989年 ●留学生7名を派遣。

第10期 1990年 ●留学生10名を派遣。

第11期 1991年

- 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
- 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

第12期 1992年

- 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。

知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由者チームはアメリカで約2週間の研修を行う。

第13期 1993年

- 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がいの「就労」をテーマに学ぶ。

第14期 1994年

- 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
- 研修派遣生13名を派遣。

第15期 1995年

- 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
- 研修派遣生10名を派遣。

第16期 1996年 ●研修派遣生10名を派遣。

第17期 1997年 ●研修派遣生9名を派遣。

第18期 1998年 ●研修派遣生7名を派遣。

- 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

第19期 1999年 ●研修派遣生9名を派遣。

- ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



第20期 2000年 ●研修派遣生8名を派遣。

第21期 2001年 ●研修派遣生9名を派遣。

第22期 2002年 ●研修派遣生9名を派遣。

第23期 2003年

- 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
- 研修派遣生11名を派遣。

第24期 2004年

- 研修派遣生12名を派遣。

第25期 2005年

- 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
- 研修派遣生11名を派遣。

第26期 2006年

- 研修派遣生12名を派遣。

第27期 2007年

- 研修派遣生12名を派遣。

第28期 2008年

- 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
- 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

第29期 2009年

- 研修派遣生16名を派遣。

第30期 2010年

- 研修派遣生27名を派遣。
- バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに、対し、「愛の輪賞」を贈呈。

●12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がいのための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



第31期 2011年

- 研修派遣生19名を派遣。
- 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

第32期 2012年

- 研修派遣生13名を派遣。

第33期 2013年

- 研修派遣生9名を派遣。
- ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

第34期 2014年

- 研修派遣生14名を派遣。
- 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

第35期 2015年

- 研修派遣生5名を派遣。

第36期 2016年

- 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
- 研修派遣生7名を派遣。

第37期 2017年

- 研修派遣生8名を派遣。
- 「ミドルグループ研修」が加わる。

第38期 2018年

- 研修派遣生8名を派遣。

第39期 2019年

- 研修派遣生9名を派遣。

第40期 2020年

- 研修派遣生7名を派遣。

第41期 2021年

- 第41期生の募集はコロナウイルス感染拡大のため未実施。
- 東京2020パラリンピック競技大会の水泳競技において、第30期研修派遣生 木村敬一さんが、金メダルと銀メダルを獲得。

第42期 2022年

- 待機中の研修派遣生を含む5名を派遣。

第43期 2023年

- 研修派遣生9名を派遣。

第44期 2024年

- 研修派遣生5名を派遣。
- パリパラリンピック競泳で第30期研修派遣生 木村敬一さんが金メダル獲得。2連覇2冠達成。

役員・委員一覧



役員

(任期:2025年6月~2027年6月開催予定評議員会)			
理事	理事長	大久保 裕 行	(株)ダスキン 代表取締役 社長執行役員
	専務理事	大 石 あかね	(株)ダスキン ミスタードーナツ事業本部ミスタードーナツ運営開発本部(MDカレッジ)部長
	常務理事	槌 矢 美由起	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	山 根 明	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	五十嵐 紀 子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	大 熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
	理事	田 門 浩	都民総合法律事務所 弁護士
	理事	小 川 美 樹	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	朝 日 雅 也	埼玉県立大学 名誉教授
	理事	立 花 明 彦	(社福)日本点字図書館 館長
理事	竹 内 克 人	ダスキン生産協栄会 理事長	

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)			
評議員	評議員	佐 浦 隆 一	大阪医科薬科大学 医学部 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 教授
	評議員	金 井 栄	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	山 崎 正 順	ダスキンレントオール・ヘルスレントコミュニティ会 理事
	評議員	山 本 貴 之	(株)ヤマヨフーズ 代表取締役社長
	評議員	松 重 泰 子	(株)ダスキン 執行役員 品質保証・リスク管理部担当兼人事部長
	評議員	池 口 誠	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	永 原 秀 治	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
評議員	吉 田 正 則	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事	

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)			
監事	監 事	飯 田 健 司	(株)ダスキン 取締役CFO

(任期:2025年6月~2027年6月開催予定評議員会)			
顧問	顧 問	山 村 輝 治	元(株)ダスキン 会長

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2025年4月1日~2027年3月31日)

青 柳 まゆみ	愛知教育大学教育学部 准教授	福 田 暁 子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員
金 塚 たかし	大阪精神障害者就労支援ネットワーク 副理事長・統括所長	小 林 昌 之	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 主任調査研究員
小 林 洋 子	筑波技術大学 講師	平 下 耕 三	NPO法人自立生活夢田センター理事長 全国自立生活センター協議会代表
長 瀬 修	立命館大学生存学研究所研究員 インクルージョンインターナショナル事務総長	伊 藤 丈 人	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター上席研究員

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2025年4月1日~2027年3月31日)

寺 島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長	野 村 美 佐 子	NPO法人 支援技術開発機構 事務局長
山 口 和 彦	社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 監事	廉 田 俊 二	NPO法人 メインストリーム協会 理事長
河 村 宏	NPO法人 支援技術開発機構 副理事長	川 口 聖	日本手話学会 理事
嶋 本 恭 規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事	茨 木 尚 子	明治学院大学 教授

愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2024年4月1日~2026年3月31日)

北海道地域	吉 川 哲 也	(株)ダスキンフロンティア 代表取締役
東北地域	稲 葉 廣 直	(株)アイウェイイナバ 代表取締役社長
東京地域	相 澤 善	(有)エーゼット 代表取締役
北関東地域	佐 藤 龍	(株)スタート 代表取締役
南関東地域	渡 辺 信 義	クリーンスペース(株) 代表取締役会長
東海地域	浅 倉 伸 治	(株)経真 代表取締役社長
北陸地域	岡 島 匡 志	三剛産業(株) 代表取締役
近畿地域	山 形 淳 一 郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	橋 詰 正 紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	西 岡 正 人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	深 堀 誠 二	(有)オークス 代表取締役